



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月1日

上場取引所 東大

上場会社名 参天製薬株式会社

コード番号 4536 URL <http://www.santen.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 黒川 明

問合せ先責任者 (役職名) コーポレート・コミュニケーショングループ (氏名) 日比 貴史
グループマネージャー

TEL 06-6321-7007

四半期報告書提出予定日 平成23年11月4日

配当支払開始予定日

平成23年11月30日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	56,789	5.3	14,570	3.2	15,050	3.9	9,905	6.8
23年3月期第2四半期	53,914	△8.8	14,112	△25.9	14,490	△23.2	9,272	△20.5

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 9,949百万円 (35.1%) 23年3月期第2四半期 7,364百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
24年3月期第2四半期	113.70	113.58
23年3月期第2四半期	108.94	108.80

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
24年3月期第2四半期	188,459	162,156	85.9	1,857.14
23年3月期	184,801	156,404	84.5	1,793.15

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 161,806百万円 23年3月期 156,098百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
23年3月期	—	40.00	—	50.00	90.00
24年3月期	—	50.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	50.00	100.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	116,000	4.7	30,000	△2.4	30,500	△3.1	20,500	△3.9	239.95

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
なお、当第2四半期連結会計期間より、サンテン・インディア・プライベート・リミテッドを新たに設立したため、連結の範囲に含めています。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	87,127,603 株	23年3月期	87,053,103 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	890 株	23年3月期	464 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	87,120,237 株	23年3月期2Q	85,120,236 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績は、事業環境変化、新薬の承認時期、為替レート変動、医薬品行政の動向など様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	6
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	6
2. サマリー情報（その他）に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
(4) 追加情報	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報等	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(7) 重要な後発事象	12
4. 連結参考資料	13
(1) 主要製品売上高	13
(2) 医薬品開発状況	14
(3) 設備投資、減価償却費、リース料および研究開発費の実績ならびに見込額	16

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

① 当第2四半期連結累計期間の業績の状況

国内医療用眼科薬市場は、抗アレルギー剤、網膜疾患治療剤および角結膜疾患治療剤の伸長により、前年同期と比べ拡大しました。一方、海外医療用眼科薬市場は、アジアでは堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は、需要の減少により、前年同期と比べ縮小しました。

このような状況下、当第2四半期の業績は、以下のとおり増収増益となりました。

(単位：百万円)

	前第2四半期	当第2四半期	前年同期増減率
売上高	53,914	56,789	5.3%
営業利益	14,112	14,570	3.2%
経常利益	14,490	15,050	3.9%
四半期純利益	9,272	9,905	6.8%

[売上高]

前年同期から5.3%増加し567億8千9百万円となりました。

これは、主力の国内医療用医薬品事業において、緑内障・高眼圧症治療剤「タプロス点眼液」・「コソプト配合点眼液」、角結膜疾患治療剤「ジクアス点眼液」等の成長に加えて、海外における普及促進活動により、当社製品の市場浸透が進んだことによるものです。

[営業利益]

前年同期から3.2%増加し145億7千万円となりました。

売上原価は177億6千7百万円となり、売上原価率は31.3%となりました。販売費及び一般管理費については244億5千1百万円となり、このうち研究開発費は76億2百万円となりました。

[経常利益]

前年同期から3.9%増加し150億5千万円となりました。

[四半期純利益]

前年同期から6.8%増加し99億5百万円となりました。

② 当第2四半期連結累計期間のセグメント別業績の状況

参天製薬グループは、医薬品事業とその他事業の二つのセグメントから構成されます。売上高の多くは医薬品事業によっており、その全売上高に占める比率は97.2%になります。

医薬品事業の売上高は、前年同期から4.3%増加し552億2千4百万円となりました。営業利益は、141億9千5百万円となりました。一方、その他事業の売上高は、眼内レンズ「エタニティー」が順調に市場に浸透した結果、前年同期から64.6%増加し15億6千4百万円となりました。営業利益は、3億7千5百万円となりました。

(単位：百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率
医薬品事業	46,778	3.4%	8,446	9.3%	55,224	4.3%
医療用医薬品	44,336	3.8%	8,441	9.3%	52,778	4.6%
うち眼科薬	38,687	3.4%	8,249	10.5%	46,937	4.6%
うち抗リウマチ薬	5,073	1.7%	84	45.5%	5,157	2.2%
うちその他医薬品	575	78.6%	107	△46.7%	682	30.4%
一般用医薬品	2,441	△2.4%	4	△11.2%	2,446	△2.4%
その他事業	923	35.9%	641	136.5%	1,564	64.6%
医療機器	917	36.2%	641	136.5%	1,558	65.0%
その他	5	6.1%	—	—	5	6.1%
合計	47,701	3.9%	9,087	13.6%	56,789	5.3%

(注) 各セグメントの売上高は、外部顧客に対する売上高を表しています。

[医薬品事業]

(医療用医薬品)

<眼科薬>

[国内]

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を展開し、国内医療用眼科薬の売上高は、前年同期と比べ3.4%増加し386億8千7百万円となりました。

緑内障・高眼圧症の治療ニーズに合致した新製品「タプロス点眼液」は順調に市場浸透した結果、売上高は前年同期と比べ8.1%増加し35億5千4百万円となりました。

角結膜疾患治療剤領域では、ドライアイ（眼球乾燥症候群）などに伴う角結膜上皮障害の治療剤「ヒアレイン点眼液」が、患者さんのQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を高める製品特性と、患者さんや医療現場に対するドライアイの疾患啓発活動などにより順調な伸びを示し、売上高は、前年同期と比べ4.7%増加し97億9千7百万円となりました。また、平成22年4月にドライアイ治療剤として日本での製造販売承認を取得した新製品「ジクアス点眼液」は、平成22年12月に発売を開始し、売上高は11億2千1百万円となりました。

合成抗菌点眼剤領域では、市場環境の変化などにより、「クラビット点眼液」、「タリビッド点眼液」両剤合わせた売上高は、前年同期と比べ5.3%減少し67億2千3百万円となりました。

抗アレルギー点眼剤領域では、引き続き医薬情報提供活動に注力し、加えてスギ花粉の飛散が前年同期と比べ大規模であったため、「リボスチン点眼液」の売上高は、前年同期と比べ9.7%増加し11億9千6百万円となりました。

[海外]

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ10.5%増加し82億4千9百万円となりました。

欧州では医薬情報提供などの普及促進活動に注力した結果、ドイツにおいて新製品の緑内障・高眼圧症治療剤「タフロタン」が市場に浸透してきました。

アジアにおいても、普及促進活動の展開により、中国、韓国を中心に、当社製品の市場浸透が進みました。

<抗リウマチ薬>

抗リウマチ薬の売上高は、「リマチル錠」、「アザルフィジンEN錠」ならびに「メトレート錠」が、国内において関節リウマチ治療ガイドラインで強く推奨される製剤に位置付けられていることもあり、前年同期と比べ2.2%増加し51億5千7百万円となりました。

<その他医薬品>

その他医薬品には、技術提携（導出）契約に基づく収入、受託製造等が含まれます。

その他医薬品の売上高は、前年同期と比べ30.4%増加し6億8千2百万円となりました。

(一般用医薬品)

一般用医薬品の売上高は、サンテFX発売20周年記念キャンペーンを中心に販売促進活動に注力しましたが、国内における需要の減少や競合の影響もあり、前年同期と比べ2.4%減少し24億4千6百万円となりました。

[その他事業]

(医療機器)

医療機器の売上高は、高屈折率のアクリル素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」の普及促進活動に注力した結果、前年同期から65.0%増加し15億5千8百万円となりました。

(その他)

その他の売上高は、(株)クレール（連結子会社）での無塵・無菌服のクリーニング業によるものであり、5百万円となりました。

③ ノバガリ社の買収について

当社は、平成23年9月27日、フランス共和国ノバガリ社の発行済株式の約50.55%を取得することで、ノバガリ社およびノバガリ社の株式保有者と株式譲渡契約を締結しました。

この買収によって、当社が長期的な経営ビジョンとして掲げる「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現に向けて、ノバガリ社の有する研究開発パイプラインと製剤技術を獲得する事により、ドライアイ領域でのパイプラインの強化と製品競争力の向上を実現し、当社の事業基盤を強化することができると考えております。

当該株式譲渡契約により、同株式を取得後、これに基づき、当社は、フランス金融市場庁(AMF)の規則に従い、公開買付等を通じて、ノバガリ社の全株の取得を目指します。

④ 研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として研究開発を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な臨床開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジンF_{2α}誘導体DE-085(一般名:タフルプロスト)は、平成20年12月より日本で「タプロスト点眼液」として販売中です。欧州では平成20年6月のドイツに始まり、現在、20カ国で自社販売しています。アジアにおいては、平成22年3月以降、香港、韓国に続き、新たにインドネシア、シンガポールで発売しています。中国では承認申請中です。また、平成21年4月には、メルク社(米国)とのライセンス契約締結により、西欧(ドイツを除く)、北米、南米、アフリカにおける販売権をメルク社に許諾しました。メルク社は平成21年9月以降、イギリス、スペイン、イタリアなど合計11カ国でタフルプロストを販売しており、米国で承認申請中です。この結果、タフルプロストの販売国は、全世界で36カ国となっています。

緑内障・高眼圧症を適応症とするDE-111(一般名:タフルプロスト/チモロールマレイン酸塩)は、日本と欧州で第Ⅲ相試験を実施中です。また、緑内障・高眼圧症を適応症とするアデノシンA_{2A}受容体作動薬DE-112(一般名:未定)は、第Ⅰ相/前期第Ⅱ相試験を米国で実施中です。

角結膜疾患(ドライアイを含む)領域において、DE-089(一般名:ジクアホソルナトリウム)は、平成22年12月より日本で「ジクアス点眼液」として販売しています。また、韓国では承認申請中であり、中国でも承認申請準備中です。ドライアイを含む角結膜上皮障害を適応症とするDE-101(一般名:リボグリタゾン)は、涙液の状態を改善する薬剤として、米国で第Ⅱ相試験を開始しました。また、遷延性角膜上皮欠損を適応症とするDE-105(一般名:未定)は、日本で第Ⅱ相試験を実施中です。さらに、選択的グルココルチコイド受容体作動薬DE-110(一般名:未定)も、ドライアイを含む角結膜上皮障害を対象とする第Ⅱ相試験を米国で実施中です。

網膜領域において、糖尿病黄斑浮腫を適応症とするDE-102(一般名:ベタメタゾン)は、第Ⅱ相/第Ⅲ相試験を日本で実施中です。また、DE-109(一般名:シロリムス)は、米国でぶどう膜炎を適応症とする第Ⅲ相試験を実施中です。

外眼部感染症を適応症とするDE-108(一般名:レボフロキサシン(1.5%))は、平成23年6月より「クラビット点眼液1.5%」として、日本で発売しています。

アレルギー性結膜炎を適応症としたDE-114(一般名:エピナスチン塩酸塩)は、日本で第Ⅲ相試験を実施中です。

関節リウマチを適応症とするDE-098(一般名:未定)は、日本で第Ⅱ相試験を実施中です。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期末の資産は、前連結会計年度末と比べ36億5千8百万円増加し、1,884億5千9百万円となりました。現金及び預金の増加などが要因です。

負債は、前連結会計年度末と比べ20億9千5百万円減少し、263億2百万円となりました。支払手形及び買掛金の減少、未払金の減少などが要因です。

純資産は、前連結会計年度末と比べ57億5千2百万円増加し、1,621億5千6百万円となりました。利益剰余金の増加などが要因です。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末と比べ1.4ポイント増加し、85.9%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期末までの営業活動によるキャッシュ・フローは、93億2千7百万円の収入となりました。税金等調整前四半期純利益は150億8千8百万円であり、法人税等の支払いが44億4千1百万円あったことなどによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、14億1千6百万円の収入となりました。有価証券の取得による支出が14億1千6百万円となりましたが、定期預金の払戻による収入が20億3百万円、有価証券の売却による収入が19億2千4百万円あったことなどによります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、42億4千4百万円の支出となりました。配当金の支払いが43億5千万円あったことなどによります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、前連結会計年度末と比べ62億3千1百万円増加し、787億1千4百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期の業績は概ね予定通り推移しており、平成23年5月10日に公表した連結業績予想は修正していません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、当第2四半期連結会計期間より、サンテン・インディア・プライベート・リミテッドを新たに設立したため、連結の範囲に含めています。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）および「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しています。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	65,558	69,991
受取手形及び売掛金	38,980	38,973
有価証券	13,332	13,450
商品及び製品	11,784	12,793
仕掛品	449	477
原材料及び貯蔵品	2,469	2,150
繰延税金資産	1,986	2,012
その他	3,106	2,438
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	137,668	142,285
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	40,719	40,661
減価償却累計額及び減損損失累計額	△27,268	△27,709
建物及び構築物(純額)	13,450	12,951
機械装置及び運搬具	11,153	10,953
減価償却累計額及び減損損失累計額	△9,520	△9,394
機械装置及び運搬具(純額)	1,632	1,558
土地	8,216	8,203
リース資産	233	231
減価償却累計額及び減損損失累計額	△47	△54
リース資産(純額)	186	177
建設仮勘定	186	598
その他	10,937	11,130
減価償却累計額及び減損損失累計額	△9,653	△9,791
その他(純額)	1,283	1,338
有形固定資産合計	24,956	24,827
無形固定資産		
ソフトウェア	952	741
その他	39	224
無形固定資産合計	991	966
投資その他の資産		
投資有価証券	12,141	11,788
繰延税金資産	7,538	7,085
その他	1,505	1,506
投資その他の資産合計	21,185	20,380
固定資産合計	47,133	46,174
資産合計	184,801	188,459

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,031	5,314
未払金	8,444	7,647
未払法人税等	4,631	5,205
賞与引当金	2,712	2,595
その他	2,285	1,529
流動負債合計	24,104	22,293
固定負債		
退職給付引当金	3,266	3,387
役員退職慰労引当金	453	189
資産除去債務	160	161
その他	412	269
固定負債合計	4,292	4,009
負債合計	28,397	26,302
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,614	6,670
資本剰余金	7,968	8,025
利益剰余金	147,578	153,131
自己株式	△1	△3
株主資本合計	162,159	167,824
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△443	△83
為替換算調整勘定	△5,618	△5,934
その他の包括利益累計額合計	△6,061	△6,017
新株予約権	305	350
純資産合計	156,404	162,156
負債純資産合計	184,801	188,459

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	53,914	56,789
売上原価	17,435	17,767
売上総利益	36,478	39,021
販売費及び一般管理費	22,366	24,451
営業利益	14,112	14,570
営業外収益		
受取利息	20	23
受取配当金	229	228
為替差益	—	10
生命保険配当金	136	143
その他	99	101
営業外収益合計	486	506
営業外費用		
支払利息	24	11
為替差損	64	—
その他	18	15
営業外費用合計	107	27
経常利益	14,490	15,050
特別利益		
固定資産処分益	5	4
投資有価証券売却益	—	57
会員権売却益	1	—
特別利益合計	6	61
特別損失		
固定資産処分損	3	7
投資有価証券売却損	—	15
会員権売却損	1	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	108	—
特別損失合計	113	22
税金等調整前四半期純利益	14,383	15,088
法人税、住民税及び事業税	4,537	5,015
法人税等調整額	573	167
法人税等合計	5,111	5,182
少数株主損益調整前四半期純利益	9,272	9,905
四半期純利益	9,272	9,905
少数株主損益調整前四半期純利益	9,272	9,905
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△692	359
為替換算調整勘定	△1,215	△316
その他の包括利益合計	△1,908	43
四半期包括利益	7,364	9,949
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,364	9,949
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	14,383	15,088
減価償却費	1,488	1,352
退職給付引当金の増減額(△は減少)	248	122
受取利息及び受取配当金	△249	△251
支払利息	24	11
売上債権の増減額(△は増加)	△2,237	△2
たな卸資産の増減額(△は増加)	6	△758
仕入債務の増減額(△は減少)	△582	△785
その他	△463	△1,254
小計	12,618	13,522
利息及び配当金の受取額	244	255
利息の支払額	△25	△8
法人税等の支払額	△6,543	△4,441
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,294	9,327
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,933	△145
定期預金の払戻による収入	1,235	2,003
有価証券の取得による支出	△1,412	△1,416
有価証券の売却による収入	—	1,924
固定資産の取得による支出	△783	△1,327
固定資産の売却による収入	185	5
投資有価証券の取得による支出	△3,071	△4
投資有価証券の売却による収入	3	377
その他	8	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,769	1,416
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	268	—
短期借入金の返済による支出	△536	—
配当金の支払額	△3,401	△4,350
その他	74	105
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,594	△4,244
現金及び現金同等物に係る換算差額	△463	△267
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,532	6,231
現金及び現金同等物の期首残高	64,348	72,482
現金及び現金同等物の四半期末残高	60,815	78,714

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

1. 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	計	調整額	四半期連結 損益及び包括 利益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	52,964	950	53,914	—	53,914
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	63	63	△63	—
計	52,964	1,013	53,978	△63	53,914
セグメント利益又は損失(△)	14,432	△320	14,112	—	14,112

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	計	調整額	四半期連結 損益及び包括 利益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	55,224	1,564	56,789	—	56,789
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	58	58	△58	—
計	55,224	1,623	56,847	△58	56,789
セグメント利益	14,195	375	14,570	—	14,570

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っています。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

株式取得による会社等の買収

当社は、平成23年9月27日、フランス共和国ノバガリ社の発行済株式の約50.55%を取得することで、ノバガリ社およびノバガリ社の株式保有者と株式譲渡契約を締結しました。

当該株式譲渡契約により、平成23年10月11日付で同株式を取得しました。

1. 買収の目的

ノバガリ社は、ドライアイ領域における眼科用医薬品の研究開発を展開する製薬企業であり、一般用医薬品の販売も行っています。当社は、ノバガリ社の有する高い研究開発力と製剤技術力に着目しました。

特にノバガリ社が保有する、Novasorb®技術(*)を含む優れた製剤技術を獲得する事により、当社の開発品の臨床効果の向上を図ることが可能となり、当社の競争力向上のためには、ノバガリ社の買収が最適な選択肢であると判断しました。また同社が現在開発中のCyclokot®(一般名:シクロスポリン)は、前述のNovasorb®技術を使用した、ドライアイ領域では世界的に数少ない後期開発品であり、今後、欧州市場における初の医療用ドライアイ治療剤としての上市が期待できる事により、当社が重点地域とする欧州を含む海外事業の強化が図れると考えています。

* 乳化点眼剤に正電荷を付与する技術で、それにより薬剤の眼表面滞留性と眼内移行性を高めるためのもの。

2. 株式取得の相手方の名称

Edmond du Rothchild Investment Partners
Auriga Partners
IDinvest Partners
CDC Innovation
その他個人株主

3. 買収する会社の名称、事業内容、規模

名称	Novagali Pharma S.A. (フランス共和国)	
事業内容	眼科用医薬品の開発、販売	
規模(平成22年度)	売上高	580千ユーロ
	営業損失	7,597千ユーロ
	純損失	7,464千ユーロ
	総資産	21,382千ユーロ

4. 株式取得の時期

株式譲渡契約による取得 平成23年10月11日

5. 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

株式譲渡契約による取得

取得する株式の数	8,243,347株
取得価額	50.7百万ユーロ

※ 後述の株式公開買付の完了により、当社がノバガリ社の発行済株式総数の95%以上を所有することとなった場合、1株当たり0.10ユーロを追加で支払います。

※ 取得価額は付随費用を除きます。

取得後の持分比率	50.55%
----------	--------

6. 支払資金の調達

本件株式取得のための資金は、当社が保有する手元資金により充当しました。

7. その他

本件株式譲渡契約に基づき、当社は、フランス金融市場庁(AMF)の規則に従い、公開買付を通じてノバガリ社の未取得株式の取得をAMFに申請する意向です(以下、「株式公開買付」といいます。)。本件株式公開買付は、平成23年11月頃の開始を予定しています。本件株式公開買付の後に当社がノバガリ社の95%以上の株式および議決権を所有した場合には、本件株式公開買付後にノバガリ社の残存株式の強制的スクイーズアウトの手続きを経て、ノバガリ社の全株の取得を目指します。

(1) 株式取得の相手方の名称

株式譲渡契約者を除くノバガリ社の全株主(予定)

(2) 株式取得の時期

株式公開買付による取得 未定

(3) 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

株式公開買付による取得

取得する株式の数	8,065,513株(予定)
取得価額	49.6百万ユーロ(予定)

※ 株式公開買付の完了により、当社がノバガリ社の発行済株式総数の95%以上を所有することとなった場合、1株当たり0.10ユーロを追加で支払います。

※ 取得価額は付随費用を除きます。

取得後の持分比率	100%(予定)
----------	----------

(4) 支払資金の調達

本件株式公開買付のための資金は、当社が保有する手元資金により充当する予定です。

4. 連結参考資料

(1) 主要製品売上高

(単位:百万円)

品目名 有効成分・剤形	薬効分類	平成23年3月期		平成24年3月期	
		第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期見込
クラビット点眼液 レボフロキサシン点眼液	合成抗菌点眼剤	6,950 (4.7)	12,904 (5.4)	6,767 (△2.6)	12,917 (0.1)
タリビッド点眼液 オフロキサシン点眼液	合成抗菌点眼剤	1,254 (△13.0)	2,419 (△0.2)	1,036 (△17.3)	2,157 (△10.8)
タブロス点眼液 タフルプロスト点眼液	緑内障治療剤	3,306 (66.6)	6,633 (41.5)	3,642 (10.2)	8,438 (27.2)
コソプト配合点眼液 ドルゾラミド塩酸塩/チモロールマレイン酸塩点眼液	緑内障治療剤	1,003 —	2,935 —	2,832 (182.2)	5,521 (88.1)
チモプトール点眼液 チモロールマレイン酸塩点眼液	緑内障治療剤	1,174 (△22.4)	2,152 (△24.0)	906 (△22.8)	1,254 (△41.7)
チモプトールXE点眼液 チモロールマレイン酸塩持続性点眼液	緑内障治療剤	1,579 (△11.7)	2,891 (△16.8)	1,269 (△19.6)	2,367 (△18.1)
デタントール点眼液 ブナゾシン塩酸塩点眼液	緑内障治療剤	1,079 (△4.2)	2,064 (△4.8)	1,005 (△6.8)	2,054 (△0.5)
レスキュラ点眼液 イソプロピル ウノプロストン点眼液	緑内障治療剤	1,471 (△25.7)	2,777 (△24.3)	1,284 (△12.7)	2,146 (△22.7)
リボスチン点眼液 レボカバスチン塩酸塩点眼液	抗アレルギー 点眼剤	1,090 (△14.3)	3,800 (17.7)	1,196 (9.7)	3,065 (△19.4)
ヒアレイン点眼液 ヒアルロン酸ナトリウム点眼液	角結膜疾患治療剤	10,639 (△3.1)	21,257 (0.2)	11,322 (6.4)	22,132 (4.1)
ジクアス点眼液 ジクアホルナトリウム点眼液	角結膜疾患治療剤	— —	745 —	1,121 —	3,298 (342.7)
フルメロン点眼液 フルオロメロン点眼液	抗炎症点眼剤	2,179 (△5.5)	4,753 (7.2)	1,991 (△8.6)	4,145 (△12.8)
カリーユニ点眼液 ピレノキシ点眼液	老人性 白内障治療剤	1,939 (0.3)	3,728 (0.0)	1,920 (△1.0)	3,757 (0.8)
オペガンハイ眼粘弾剤 ヒアルロン酸ナトリウム眼科手術補助剤	眼科手術補助剤	1,650 (△6.7)	3,226 (△6.0)	1,535 (△7.0)	3,301 (2.3)
リマチル錠 ブシラミン錠	抗リウマチ剤	2,062 (△9.6)	3,944 (△9.4)	1,952 (△5.3)	3,725 (△5.6)
アザルフィジンEN錠 サラゾスルファピリジン腸溶錠	抗リウマチ剤	2,109 (△3.3)	4,106 (△2.6)	2,069 (△1.9)	4,097 (△0.2)
メレート錠 メトレキサート錠	抗リウマチ剤	608 (24.8)	1,250 (25.6)	816 (34.2)	1,584 (26.7)
一般用医薬品		2,507 (△10.2)	4,723 (△10.1)	2,446 (△2.4)	4,657 (△1.4)

下段:対前期伸長率(%)

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。

(2) 医薬品開発状況

■ 医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト	DE-085	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同	日本	2008年12月					
				欧州	2008年6月					
				米国	(導出)					
				ラテンアメリカ	(導出)					
				アジア	2010年8月					
プロスタグランジンF _{2α} 誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。2008年12月、国内での販売開始。欧州では、ドイツ、デンマーク等で販売中。2009年4月、米国等での開発権をメルク社(米国)に許諾。アジアでは香港、韓国、インドネシア、シンガポールにて発売中。中国で承認申請中。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ジクアホソルナトリウム	DE-089	ドライアイ	インスパイア	日本	2010年12月					
				アジア	2011年3月					
角結膜上皮からムチンや水分の分泌を促すドライアイ治療剤。既存薬と異なる作用機序を持つ。2010年12月、日本にて発売。韓国で承認申請中、中国では承認申請準備中。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ロメリジン塩酸塩	DE-090	緑内障	MSD	日本						
視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の開発薬剤。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が軽微であり、高い安全性を有する。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
リボグリタゾン	DE-101	角結膜上皮障害(ドライアイを含む)	第一三共	米国						
抗炎症作用などに基づく涙液の質及び量の改善効果を期待。米国にてフェーズ2試験を開始。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ベタメタゾン	DE-102	糖尿病黄斑浮腫	オークウッドと共同	日本	(フェーズ2/3)					
ドラッグデリバリーシステム概念を取り入れたステロイドマイクロスフェア製剤。研究段階では眼局所への投与により長く安定した薬効持続性を確認。商業用スケールでの製造技術開発でオークウッド社(米国)と提携。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-105	遷延性角膜上皮欠損	自社	米国						
				日本						
既存療法では難治性の遷延性角膜上皮欠損に対し、角膜上皮細胞伸展促進作用により、角膜上皮欠損を修復する効果と高い安全性を期待。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
レボフロキサシン(1.5%)	DE-108	外眼部感染症	第一三共	日本	2011年6月					
ニューキノロン系抗菌薬の高濃度製剤。2011年6月、日本にて発売。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シロリムス	DE-109	ぶどう膜炎	自社	米国						
免疫抑制作用、血管新生抑制作用などを有する硝子体内注射剤。2010年6月に全世界での開発・製造・販売権を取得。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-110	角結膜上皮障害(ドライアイを含む)	自社	米国						
選択的グルココルチコイド受容体作動薬(SEGRA)。ドライアイを含む角結膜上皮障害を対象として、米国にてフェーズ2試験を実施中。										

■医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト／ チモロールマレイン酸塩	DE-111	緑内障・高眼圧症	自社	日本						
			共同開発	欧州						
プロスタグランジンF _{2α} 誘導体およびβ遮断剤の配合剤。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-112	緑内障・高眼圧症	フォレスト・ラボラトリーズ	米国	(フェーズ1/2a)					
高い選択性を持つアデノシンA _{2A} 受容体作動薬。プロスタグランジン系とは異なり、主経路(線維柱帯)からの房水流出を促進する新規作用機序の緑内障・高眼圧症治療剤。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
エピナスチン塩酸塩	DE-114	アレルギー性結膜炎	日本ベーリンガー インゲルハイム	日本						
H1拮抗作用と膜安定化作用を併せ持つアレルギー性結膜炎治療剤。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-098 (抗APO-1抗体)	関節リウマチ	セントコア	日本						
RA患者の罹病関節内でアポトーシスを誘導する関節注入剤。セントコア社(米国)から抗APO-1抗体の国内外での開発販売権を導入。										

■2011年度第1四半期発表時(2011年8月2日)からの変更点

【進捗】

開発コード	変更点
DE-089	中国で承認申請準備中
DE-101	フェーズ2開始

(3) 設備投資、減価償却費、リース料および研究開発費の実績ならびに見込額

■設備投資

(単位:百万円)

	平成23年3月期		平成24年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期見込
設備投資額	497	1,709	1,261	6,210

■減価償却費

(単位:百万円)

	平成23年3月期		平成24年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期見込
総額	1,379	2,808	1,317	2,950
製造経費	730	1,532	679	1,530
販売管理費	274	512	286	630
研究開発費	373	762	351	790

(注)長期前払費用の償却費は除いています。

■リース料

(単位:百万円)

	平成23年3月期		平成24年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期見込
総額	128	156	18	40
製造経費	92	94	1	2

■研究開発費

(単位:百万円)

	平成23年3月期		平成24年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期見込
研究開発費	6,379	13,221	7,602	16,000
対売上高比	11.8%	11.9%	13.4%	13.8%

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。